

施策分析シート

No1

施策名	放置自転車対策の推進	施策No	14-05	部課名	土木部管理計画課		
				課長名	藤嶋敏夫	内線 2710	
関連部課名							
行政評価 事業体系	分野	防災・まちづくり・環境					
	政策	快適な生活環境の整備					
目的	<p>放置自転車は、鉄道駅周辺では減少してきたとはいえ自転車利用のルール・マナーの欠如により依然として多い状況にある。放置自転車は歩行者の安全な通行や消防車などの緊急車両の通行の妨げになっているほか、公共空間である駅前広場等の機能低下や街の美観を損なっている。これを解決するため自転車駐車場の整備、ルール・マナー向上のための啓発活動の実施、放置自転車の撤去等の施策を総合的に実施し、安全で住みやすい街荒川区を構築していく。</p>						
指 標	施策の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明
			平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値 (28年度)	
	①	放置自転車台数	1,950	2,144	2,000	1,000	放置自転車の減少が大きな課題・そして成果を確認
	②	駐輪可能台数(民間含む)	7,412	7,281	7,231	11,030	日暮里駅、熊野前駅等に駐輪場を新設
	③						
	④						
⑤							
現状と課題	<p>現在、駅周辺を中心として2,000台を超える放置自転車があり、歩行者等の大きな障害となっているため、その対応策に多大の税金を投入している。安全・安心して通行できる道路の確保、災害時の障害解消等の観点からより一層のルール・マナーの向上を図るとともに自転車駐車場の整備等を行い放置自転車問題を解決することが大きな課題である。</p>						
今後の方向性	<p>放置自転車は減少しているといっても、現在の駅前を中心に放置されている自転車は街の環境・景観等に大きな影響を及ぼしているとともに、区民の通行に多大な障害となっており、区として解決しなければならない大きな課題となっている。平成19年度末には日暮里駅前に駐輪場が完成するので日暮里駅前の放置自転車クリーン作戦を徹底的に実施していく。また、今後の放置自転車対策としてこれまでと同様に「区民の啓発活動」「撤去」等の対策を徹底する。特に、ここ2年減少してきた撤去回数を増加させ、積極的な撤去を実施していかなければならない状況である。しかし、駐輪場が充足していなければ放置自転車の根本的解決にはならないので今後鉄道事業者等に強く協力を求め、区施策の大きな柱として放置自転車対策に取り組んでいく。</p>						

施策の優先度	優先度についての説明・意見等
A	障害者等の安全な通行、緊急車両の通行の確保

施策分析シート

No2

施策を構成する事務事業の優先度					
事務事業名	事務事業No	決算額（千円）		施策推進のための優先度	優先度についての説明・意見等
		平成16年度	平成17年度		
交通安全啓発費	10-01-04	5,149	4,316	C	常に、区民に対してルール・マナーの遵守を訴えていく
放置自転車撤去	10-01-09	103,899	69,093	B	現状を解決するためには強制的に撤去していく必要がある
自転車駐車管理運営	10-01-10	74,217	66,500	B	区民サービスを基本に、円滑な自転車駐車場の管理を行う
日暮里駅前自転車等駐車場整備	10-01-11	23,310	4,458	A	工事の進行管理を徹底し、計画どおりの竣工を確保する
合 計		206,575	144,367		